

陳 玉領氏 博士論文審査要旨

I. 論文の主題と構成

陳玉領（ちん・ぎょくりょう）氏から提出された博士論文のタイトルは、「中国における保険業の成長要因に関する研究」である。本博士論文の構成を述べるならば、次のごとくである。

- 第一章 序 論
- 第二章 中国保険業の概況——その歴史、現状および課題
- 第三章 保険需要の理論と規定要因——先行研究のレビュー
- 第四章 中国保険業の需要要因——時系列分析と横断面分析による検証
- 第五章 経済移行のリスクと保険需要
- 第六章 中国における人口高齢化と保険需要
- 第七章 保険企業システムの改革と保険業の成長——供給サイドからの考察
- 第八章 中国保険業の持続的成長に向けた課題
- 参考文献

本論文の内容に関係する予備的研究に関しては、滋賀大学名誉教授の門脇延行氏が、公の審査委員三名に加えて、陳玉領氏の修士課程在学時代から永年にわたって、大変周到的な研究指導を行なってきたことを特別に記しておきたい。

II. 論文の概要

陳玉領氏による本博士論文は、中国の生命保険業を中心として、同国における保険業の成長要因およびリスクマネジメントに関する実証的分析を行なうことを目的としている。その際とくに、中国の市場経済への移行と保険業との間の深い関係に注目し、さらに欧米や日本において近時展開された保険理論の諸成果を積極的に取り入れながら、中国における保険業の高成長を支える諸要因および諸問題点について、多角的角度から綿密な分析を行なうことを主題としている。

現代の中国においては、保険業の成長は非常に目覚ましいものであり、今や代表的な新興産業の一つと見做されるに至っている。実際のところ、一方において、中国の保険料収入総計が 1980 年の 4.6 億元から、25 年後の 2005 年には 4927 億元へと 1000 倍以上に驚異的に増加したことは驚くべき事実である。これはもちろん、同期間における中国の GDP 成長率をはるかに凌駕するものである。他方において、急速に発展した中国の保険市場に

は、保険料収入総計が波動的に変動したり、保険商品の内容や販売チャネルが急激に変化したりするなど、諸々の不安定要因が存在することも見逃せない。こういう背景事情を鑑みるならば、中国の保険業の成長要因と問題点に関する実証的研究を行なうことは意義深いと思われる。

以下においては、本論文の概要について、各章ごとに詳細に述べることにする。

第一章は、本博士論文全体の導入部分であり、序論的役割を演じる。ここでは、本論文の研究目的と問題意識、先行研究の概観、研究フレームワークと課題設定、ならびに研究方法や主要結果などが要領よく述べられている。

第二章においては、中国保険業の構成について、その歴史、現状および課題が概観的に述べられる。まず、数少ない既存研究文献を参考にし、著者が独自に調査・収集したオリジナルな資料を基礎におきながら、中国における保険業の歴史と現状が体系的に論じられている。

第三章においては、保険需要の理論と規定要因が体系的に分析されている。とくに、欧米および日本の先行研究が、中国保険業の展開との絡みで要領よくレビューされている。

次の第四章と第五章が、本博士論文の中核部分を構成すると考えられる。

第四章においては、中国保険業の需要要因について、時系列分析と横断面分析が綿密に行なわれている。そのような実証的分析の結果として、中国保険業の最重要な成長要因が経済成長そのものであること、さらに物価安定、エンゲル係数の低下、人口高齢化および教育レベルの向上なども副次的要因として枚挙できることが実証的に解明されている。

第五章においては、中国における経済移行のリスクと保険需要が実証的に分析されている。とくに、市場経済への移行が経済リスクの増大をもたらし、それが中国保険業の独自の成長要因となっていることが、簡単な計量分析を通じて明らかにされる。

次の第六章においては、中国における人口高齢化と保険需要との間の関係が、独自の資料分析を通じて解明されている。中国の人口高齢化は日本以上に進展しており、これが中国保険業の将来に暗雲を投げかけていると鋭く指摘されている。

第七章においては、供給サイドの立場から、中国における保険企業システムの発展が包括的に分析されている。とくに、国有保険企業の改革や外資保険企業の受け入れなどによって、消費者ニーズに合った保険商品と販売チャネルの開発が行なわれたことが詳しく言及されている。

最後の第八章においては、中国保険業の持続的成長に向けた課題と問題点が論じられている。とりわけ、国有保険企業のコーポレート・ガバナンスの問題、リスクマネジメントと保険監督の問題、農村保険の特殊問題などが山積しており、これらの諸問題の解決が急務であることが述べられている。

Ⅲ. 論文の評価

本博士論文の評価は、上述した論文の概要からおのずと明らかであるように考えられる。そこで以下において、本論文の学術的貢献を箇条書きに纏めておこなうならば、次のようになると思料される。

- (1) 陳玉領氏は本論文において、経済発展が非常に目覚ましい現代中国において、特に注目を集めている保険業の成長要因およびリスクマネジメント問題を取り上げ、その持続可能性と将来課題を体系的・実証的に分析している。同氏が先行研究の少ないこの分野において、時系列分析と横断的分析を積極的に行なうことによって、中国保険業の需要要因を詳細に分析したことは、学術的価値が高いものと評価できる。
- (2) 陳玉領氏は本論文において、中国における移行経済のリスクと保険需要との間の関連が周到に研究されている。とくに、市場経済への移行が経済リスクの増大をもたらし、それが中国保険業にとって独自の成長要因になっているという分析は、市場経済とリスク経済との関係を知る上で、非常に興味深い研究結果である。
- (3) 陳玉領氏は本論文において、人口高齢化と保険需要の問題、保険の供給サイドからの問題、将来における持続可能性の問題など、極めて現代的で示唆に富む研究を行なっている。しかも、同氏は中国保険業の「光」と「影」の部分バランスよく分析しているところは、学術的に十分に評価されてよいものと思う。

Ⅳ. 結論

上述の論文概要と評価に見られるように、陳玉領氏は博士論文『中国における保険業の成長要因に関する研究』の中において、中国における保険業の成長、その諸要因と将来課題、さらにはリスクマネジメントに関わる問題について、主に実証的観点から包括的・体系的に解明している。そして、このような実証的分析から、幾つかの新しい知見と独創的な研究成果を積極的に導出することに成功している。

結論として、本審査委員会は以上の諸点をすべて考慮した結果、陳玉領氏の本博士論文が滋賀大学大学院経済経営リスク専攻の博士号取得に相応しい業績であることを認めるものである。